

## グリーンツーリズムとは

グリーンツーリズムとは、農山漁村に滞在して暮らしや文化を体験する余暇活動のことで、ヨーロッパで普及した旅のスタイルです。その中心となる農村民泊（農泊）は、全国で初めて安心院町が取り組み、都市と農村が交流するグリーンツーリズムの先駆けとして注目を集めてきました。田舎のゆっくりした自然や空間、時間と人の温かさに触れるひとときを過ごすことができます。



## 安心院方式農村民泊

安心院方式は地域にある資源を最大限活用し、受け入れ家庭との心の交流を通して、第2のふるさととなることを目指しています。大人数でホテルや旅館に宿泊するような農家民宿とは異なり、受け入れ家庭ごとに農業・農村・農食体験を提供することに重点を置きます。農村のあるがままの暮らしを生かすので、家庭や季節によって体験できるメニューが異なることも農泊の魅力です。

## 家族同様に過ごす時間

心の交流を重視し、ふるさとに帰ってきた家族を迎える気持ちで1日1組をおもてなしします。収穫体験した旬の食材をお客さまとともに調理することで農村の豊かな食文化と食の幸せを感じてもらいます。

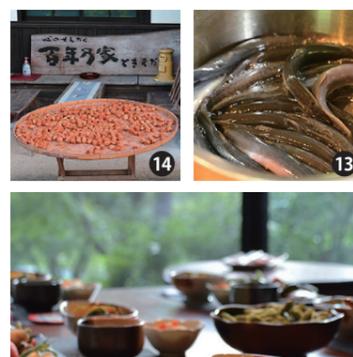
「一回泊まれば遠い親戚、十回泊まれば本当の親戚」をキャッチフレーズに親戚カードと呼ばれるスタンプカードを発行し、1泊1個のスタンプが10個たまると本当の親戚として迎え入れます。リピーターも多く、これまで本当の親戚となった方は40人以上にのびります。

## 農泊はまちづくりの手段

農泊が広まることで都市との交流人口が増え、農業・観光を含めた地域産業に経済的効果と農家への副収入をもたらします。産業の一つとして雇用も生まれ、農村で培ってきた普段の生活の知恵や技を効果的に発揮でき、農泊では「お母さん」「お父さん」として活躍しています。

都会の一般のお客さまとの交流にとどまらず、総合学習や自然体験活動ができる教育旅行やインバウンドとしても高い人気を得ています。農村の出番が増えることで、地元の方は田舎へのマイナスな考えを変え、農業や農村の誇りを徐々に取り戻すようになります。そして、農村景観の保存や直売所の開業などにつながり、農村が活性化していきます。

2018	2010	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	1997	1996	1993	
農林水産省と「農泊」の商標専用使用権設定契約を締結 安心院町グリーンツーリズム研究会が商標登録していた「農泊」の言葉を共有し、全国で使用される。	第1回大分・安心院スローフードフェア開催	農林漁家民宿おかせさん100選に3人が選ばれる 農林水産省と国土交通省が認定する100選で、安心院からまず1人、翌年さらに2人が選ばれる。	市議会がグリーンツーリズム宣言	平成の大合併で宇佐市となる	安心院町グリーンツーリズム研究会がNPO法人化	国が民泊の規制緩和を盛り込み、旅館業法施行規則を改正 安心院という小さなまちの官民協働による活動が国までも動かし、グリーンツーリズムに追い風が吹く。	受け入れ農家の増加に伴い、県が旅館業法、食品衛生法の取り扱いを通知（グリーンツーリズム通知） 県が安心院の農泊実績を調査し、全国初の緩和により農泊における安心院方式の許可基準ができる。	行政組織として全国初のグリーンツーリズム推進係を設置 都市農村交流の強力な体制を確立する。	全国に先駆け、グリーンツーリズム推進宣言を議決 町の重要な施策に定め、行政・議会・地域が一体で取り組むと宣言する。 安心院町グリーンツーリズム推進協議会を発足させ、行政に事務窓口を設置する。	ワイン祭りで試験的に農泊を実施 会員制農泊として宿泊者から謝礼金の形で料金を受け取るB&B（朝食とベッド）方式を採用する。 ※行政側で旅館業法、食品衛生法に抵触する可能性が浮上する。	安心院町グリーンツーリズム研究会に改称 この頃には約30人に増える。農業だけの問題として捉えず、職業や年代を越えた連携を目指す。町議会に特別委員会を設置し、議員自らも調査研究に参加する。	アグリツーリズム研究会発足 農家を中心に8人で発足。厳しい環境での持続的な農業のあり方を見据え、ぶどう園を中心に観光農園や産直の展開などを模索する。



小さなまち安心院から始まった安心院方式農村民泊は日本初のグリーンツーリズム推進係を行政機関に設置し、官民協働による推進体制を確立するなど日本のグリーンツーリズムをけん引してきました。今では安心院、院内、長洲など市内全域に広がり、市には国内外を問わず年間約8000人が農泊に訪れています。その農泊が現在、新型コロナの影響で苦境に立たされています。今回の特集では、どこまでも明るい「お母さん」「お父さん」にスポットを当て、これらのグリーンツーリズムについて紹介します。



①「お母さん」の名物とり飯おにぎり ②人気のパワースポット「寒水のクスノキ」 ③おやつづくりで作ったタンサン饅頭 ④ヤギのきーちゃん。動物とふれあい体験ができます ⑤「お父さん」が焼いてくれる猪肉 ⑥すっぽんと鹿のからあげ ⑦収穫体験した旬野菜 ⑧美しく広がる棚田。大自然を満喫できます ⑨安心院といえば饅頭 ⑩ノビルじょうゆをかけた手作り豆腐 ⑪イチジクのワイン煮をのせた自家製ヨーグルト ⑫長洲の漁業体験ではしゃぐ子どもたち ⑬ワインに酔うどじょう ⑭天日干しの梅干し。各家庭の味を楽しめます ⑮自慢の野菜を使った旅館さながらの夕食

体験あり1泊2日だと…

- 14:00 家到着・自己紹介
- 14:30 竹細工体験
- 16:00 畑で収穫、家でさやむき
- 17:00 深見温泉で入浴
- 18:00 夕食のお手伝い・夕食
- 20:00 野生動物ナイトサファリ
- 8:00 起床・パワースポット参り
- 8:30 朝食のお手伝い・朝食
- 10:30 家出発

寒水のしんや

ご近所の農泊家庭の方から勧められたのがきっかけでもう15年経ちます。始めてみたら、こんなにいい仕事はないですね。蔵に眠っている色々な物が使えます。うどんの機械でかりんとう作りをしたり、大量のお茶わんの使いどころがあったり、お金をかけずに始められました。

農家ではないので畑は全部グリーンツーリズム用です。小豆はさやむき、あんこ作りなど収穫以外にもできるのでよく植えています。それから、竹細工体験で箸置きやコップを作ったりもします。夕食時は体験で作ったものを使って食事し、お土産として帰ってもらいます。



お手製おやつとお守り

夕食には季節野菜の天ぷらをよく出します。猪の焼き肉や鹿のからあげなどジビエ料理も自慢です。自然薯、キクイモなど珍しいものもあるので、ぜひ食べに来てください。

来た人が喜んでくれるのが本当に嬉しくて楽しくて、ボケ防止にもなるし、農泊は天職です。皆さんも農泊を始めてほしいです。



江藤 光子さん 逸郎さん

一回泊まれば遠い親戚

農泊で体験できること

他では味わえない体験やそこにしかない景色がたくさんあります。市内でも受け入れ家庭によってできる体験はさまざま。もちろん宿泊のみも大歓迎です。

農業体験

季節ごとに農作業は異なり、普段できない貴重な体験やその時だけの体験も。旬を感じます。

春(4~5月)

野菜収穫(しいたけ、ニンジン、玉ねぎ、キャベツなど)、種まき、植付け、いちご狩り、潮干狩り

夏(6~9月)

野菜収穫(ジャガイモ、きゅうり、トマト、とうもろこしなど)、田植え、ぶどう狩り、魚市場見学

秋(10~11月)

野菜収穫(サツマイモ、カボス、ナス、ぎんなんなど)、稲刈り、わらこづみづくり(※)、栗拾い、魚市場見学、干物作り(※)刈り取った稲束を円錐形に積み上げたもの。

冬(12~3月)

野菜収穫(白菜、大根、カブ、ミカンなど)、種まき、植付け、ぶどうの木の樹皮むき、しいたけ駒打ち

農村体験

農山漁村の暮らしを体感し、豊かな大自然に感動します。

竹細工体験、動物とのふれあい、星空観察、まき割り、田舎歩き、滝や川など自然散策

雨天時でもできる！クラフトワーク(竹、わら細工、草木染めなど)史跡で平和学習、ワイナリー見学

農食体験

採れたて野菜や魚など新鮮な食材で「お母さん」と一緒に調理します。

郷土料理作り、お菓子作り、魚さばき、餅つき、そば打ち、そうめん流し、いろいろ体験

宿泊のみ1泊2日だと…

- 15:00 家到着・自己紹介
- 15:30 おやつタイム
- 16:00 五右衛門風呂で入浴
- 17:00 ゆっくり夕食や晩酌
- 22:00 就寝
- 9:00 好きな時間に起床
- 9:30 朝食
- 10:30 家出発

舟板むかしばなしの家

25年前、家によく人が集まり手料理を振る舞っていたので、一緒にまちおこししませんかと誘われて農泊を始めることになりました。地域の産業と一体になって取り組んだのが功を奏しました。一回きりと思つて人を泊めたら、その方がまた他の人を連れてきてくれて、どんどん口コミで広まってきました。おかげで25年間ずっととても楽しかったですね。出会いに恵まれて、いいお客さまばかりでした。新型コロナが流行し、こんなにお客さまがいない時期はなかなか無いです。遠方から時々電話をもらい、とても励みになっています。



うちに来たらどじょう料理を食べてください。院内で養殖されていて、臭みがなく新鮮です。どじょうを安心院ワインで酔わせてその場で揚げたり鍋にしたりします。必ずとり飯におぎんも出します。人気があるんですが、うちでは皆さんゆつくりしていきます。お好きに過ごしてください。



中山 ミヤ子さん

十回泊まれば本当の親戚

1泊2日の教育旅行だと…

- 14:00 家到着・自己紹介
- 14:30 おやつづくり
- 16:00 米作り作業
- 16:30 動物とふれあい
- 17:00 安心院温泉で入浴
- 18:00 夕食のお手伝い・夕食
- 22:00 就寝
- 7:00 起床
- 7:30 朝食のお手伝い・朝食
- 9:00 野菜収穫
- 10:30 家出発

桃源郷こびら

役場の方から修学旅行の受け入れをしてみませんかと言いかかって、農泊を始めてから20年近くになります。大変だと思つてもありましたが、だんだん燃えてきて楽しくなってきました。やっぱり自分が楽しめないとお客さまも楽しくないですから。

食べ盛りの子どもたちといろいろなものを作ります。春はよもぎ餅、夏はそうめん流し、秋は焼き芋、冬は餅つきなどをします。それから、夫がかまどと窯を作ってくれたので、一緒にご飯を炊いたりピザを焼いたり、夜食のパンを焼いたり。雨の日には鑊絵作りや折り紙遊びをします。大人の方には八毛を振る



舞います。しゃぶしゃぶや鍋、フライなど八毛料理が得意です。山なのに八毛とよく驚かれますが、遠方から食べに来てくれるファンもいますよ。

農泊ほどこんなに楽しいことはありません。皆さん一度来てみてください。チワワのくれないとポニーのさくら、ヤギのきーちゃんも待っています。



江藤 憲子さん

## 農泊体験

# ステイ、ノウハク 農泊はじめてみませんか

## 受け入れ家庭

### 農泊体験しよう

#### 1日1組でおもてなしします

まごころを込めてお迎えます。新型コロナウイルスの感染予防対策もガイドラインに沿って行っています。

#### 入浴は地元の温泉へ

安心院温泉など公共の入浴施設へご案内しますので、ゆっくり入浴を楽しむことができます。受け入れ家庭によっては五右衛門風呂など特別な入浴体験もできます。

#### 快適な環境整っています

Wi-Fi 設備や水回りなどもしっかり整備されていますので、ご安心ください。

#### 教育旅行も人気！

数人のグループに分かれて受け入れ家庭に宿泊し、農作業や田舎料理の調理などさまざまな体験を通して、農家の努力や食べ物の大切さを知ることができます。また「お母さん」「お父さん」との心の交流で、子どもたちの自立心や思いやりの心を育みます。



安心院中学校の教育旅行

### 農泊営業しよう

#### ライフスタイルに合わせて

通年でなくても、夏休みや休日、農閑期のみと季節を選んだり、子どもや教育旅行のみに目的を限定したりと無理なく受け入れを始めることができます。

#### 日頃の生活のお裾分け

農作業し、収穫した食材を使用してお客さまと食事を作るような普段の生活を変えることなく、おやつ作りや竹細工など自分たちが得意な体験の提供が魅力になります。

#### 開業を全てお手伝いします

開業の手続きは専門のスタッフが全て一緒にお手伝いし、開業後も周りが一緒になってサポートしてくれる環境があります。

#### 副収入が得られます

農泊はボランティアではなく、宿泊料や体験料といった受け入れへの対価をもらいます。副収入としてありがたいというお言葉も聞いています。

まずは  
お気軽に  
ご相談  
ください

#### 手続きの流れ

- ① 相談、ヒアリング
- ② 申請書類の作成
- ③ 施設の実施調査
- ④ 旅館業の営業許可
- ⑤ 農村民泊 開業！

### 心のふれあいを

農泊で野菜の育ち方を学んで自分で収穫したら、嫌いな野菜だって「おいしい！」と食べられるようになった子どももいます。何度もピートするうちに移住したり、農業を始めたりする方もいます。

農泊を受け入れる家庭でも「ただの農業だ」とつまらないし、続けられなかったかも。育てたものをお客さまにおいしいって言ってもらえるのがうれしくて楽しい」と皆さんが口をそろえて言います。

新型コロナウイルスの影響で外出が難しく、人との距離を保つことに慣れてきていますが、現代社会を生きていく中で人と人のふれあいは欠かせないものです。今こそ農泊で心の交流をしませんか。農泊を体験することで人の温かさに触れ、きっと農泊（ふるさと）を好きになります。お母さんお父さんとの素敵な出会いと深い心の交流を求めて、農泊を始めてみませんか。

申込・問合せ ※新型コロナウイルス感染予防対策を徹底していますが、最新の情報を確認してください。  
安心院支所 産業建設課 グリーンツーリズム推進係 (☎ 44-1113) / 安心院町グリーンツーリズム研究会 (☎ 44-1158)

## これからのグリーンツーリズム

市の農泊は農泊家庭が主導となり、行政と研究会の三つどもえでやってきました。今回、農泊に関わる皆さんにお話を伺いました。

### まず一度体感してほしい！農泊の魅力！

農業体験と宿泊はお客さまにとっても受け入れ側にとっても楽しい時間です。何より「お母さん」「お父さん」はみんな優しく温かく、ほっと落ち着くとリピーターが多いです。たった2日間の宿泊で、農泊した子どもが別れ際に寂しくて泣いてしまうという姿は農泊の神髄だと思います。心の交流を感じ、知れば知るほど行けば行くほど好きになるのが宇佐市の農泊の魅力です。

### 新規受け入れ家庭をみんなでサポート

始まりから25年が経過し、受け入れ家庭の高齢化が課題となつていきます。現在、新たに農泊を始める方を募集中です。

農泊は宿泊料や体験料など副収入が得られます。補助制度なども活用し、歴史ある古い家でも、トイレなど最新設備が整っています。メリットは十分あると思いますし、新たに農泊を始めようとする方は私たちがしっかりサポートしますのでご安心ください。農家の方でなくても、お菓子や工芸品作りなど体験があればできますので、ぜひ農泊を始めてほしいです。

### 今こそ地元の方に農泊してもらいたい

新型コロナウイルスの影響が深刻な中、市外からのお客さまはもちろん重要ですが、今だからこそ地元の方に来てほしいです。特に中学生の教育旅行や体験学習に利用してほしいです。多感な子ども家族同様の時間とふれあいで心を開いてくれます。田舎には何もないと思っている方や、市外へ出てしまう方こそ農泊して宇佐市の魅力を再発見してもらい、そして、自分には素晴らしいふるさとがあると胸を張ってもらいたいのです。



農泊始めて25年の  
大ベテラン  
中山 ミヤ子さん



安心院町グリーン  
ツーリズム研究会  
会長 宮田 静一さん



市グリーンツーリズム担当  
佐藤 悠登さん



はじめての農泊

YouTube と  
パンフレットで  
農泊体験



はじめての農泊  
~教育旅行編~

パンフレット  
「はじめての安心院方式農村民泊」



### 新しい取り組み

新型コロナウイルスの影響により、修学旅行先を県内に変更する学校が増えています。県グリーンツーリズム研究会とホテルなどを運営する城島高原オペレーションズが修学旅行誘致に向けて業務提携を結びました。

2泊3日を想定し、初日は城島高原でトレッキングや遊園地を満喫、2日目から農泊体験といった学びと遊びどちらも楽しめるプランです。観光客が減少する中、新たな需要を取り込みます。